



学校だより

「一挨一拶 (いちあい いちさつ)」

「一月はいく。二月はにげる。三月はさる。」とよく言われますが、この間、お正月だったのに来週から二月に入ります。今年の節分は、124年ぶりに2月2日だそうです。節分は、季節の分かれ目という意味なので、春がどんどん近づいています。

さて、学校内で子供たちから「おはようございます。こんにちは。失礼します。ありがとうございます。さようなら。」と元気いっぱいのあいさつがあると気持ちがいいです。声をかけてもあいさつが返ってこない、「大丈夫かな?何かあったのかな」と心配になります。

こうべ小学校では、「どん・ふわ・びた・もく」を合言葉に、年間を通して、子供たちにつけていきたい習慣の一つとして「あいさつ」を重点目標として考えています。

あいさつは、漢字では「挨拶」と書きます。「挨 (あい)」には、「押す・背中をたたく・開く・押し進める」という意味があります。「拶 (さつ)」には、「責める・迫る・押し付ける」という意味があります。「挨」「拶」ともに「押す」という意味があることから、禅宗では、この二つを並べて、門下の僧の悟りの深さを試すための問答のことを「一挨一拶 (いちあい いちさつ)」と言うそうです。問答とは、修行僧が疑問を発し、もう一人がこれに答える。複数の僧が押し合うようにして悟りを開くために「一挨一拶」を繰り返します。それを日常生活に当てはめて寒暖や安否を取り交わすなど儀礼を表す言葉になりました。そして、略されて「挨拶」となったそうです。これが、「挨拶」の語源です。

自分から挨拶をする。挨拶されれば、必ず返す。挨拶は人と人のつながりを作る。学校やご家庭でも子供たちに伝えていることは、まさに「一挨一拶」の心だとあらためて感じました。

2月・3月と学年のまとめの月です。当たり前のことを当たり前にするという意味でも、再度「挨拶」の意味を子供たちに伝え、元気な挨拶が響きあうこうべ小学校を目指していきたいと思います。

水のこころ 水のこころ 人のこころ も	水は つかめません 水は つつむのです 二つの手の中に そおっと 大切に	水は つかめません 水は すくうのです 指をびったりつけて そおっと 大切に	水のこころ 高田 敏子
------------------------------	---	---	-----------------------